



みんなで討論+世界は広いぞ:

クラス読書会 & インターナショナルデー特集号

6号 21.Feb. 2013

“読書の秋”にちなんで11/22に読書会を実施し、クラス全員が同じ文庫本を読み感想を発表しました。

また2/7には“インターナショナルデー”があり日本の大学で学ぶ留学生の方々に来ていただき、班別に分かれて多彩な文化交流行事を実施しました。

クラス読書会

1組: N. K.

1組では読書会で「あの頃僕はアホでした」という、東野圭吾さんの本を読みました。この本には、主人公の「僕」の学生時代の出来事などが中心に書かれています。



本を選ぶにあたって、私はリストから候補を絞って10冊ぐらいの本を読みました。クラスの全員に本を読んでもらうには、どんな本にすればいいかを考えました。自分のクラスだと、暗い内容の本や、分厚い本だと読みづらいと思ったので、それも考慮しました。そして、読んだ本をリストにしてアンケートを取りました。ほかのクラスと希望がかぶってしまいましたが、話し合いの結果、第一希望が通ったのでよかったです。

本を決めるころまでは良かったのですが、読書会当日にはクラスの3分の1ぐらいの人が本を読んで来ていなかったため少し残念でした。しかし、それ以外の方はしっかりと読み込んでくれていたので、たくさん意見が出て有意義な読書会ができたと思います。来年はもっと多くの人に本を読んで来て欲しいと思いました。

2組: T. W.

読書会が実施された11月22日までの間、僕は図書委員として議論のテーマにする本の選別や、読書会で実際に話し

合ってもらった議題の考案、読書会のタイムスケジュールに至るまで一人で考えました。

そもそも、M先生から「読書会」が実施されるということを知りませんでした。だから、読書会に関する仕事を任されても、話し合ってもらった議題などは一部は全校読書会のものを参考にしましたが、その他のほとんどのことを手探りで決めていくことになり、その結果、読書会当日もほとんど行き当たりばったりで下手くそな進行になってしまいました。そんな進行でも最後まで付き合ってくれたクラスの人々には、感謝の気持ちでいっぱいです。

もっとしっかりと準備しておけばよかったと後悔する点もいくつかありますが、そんな苦いところも含めて今回の「読書会」は、普段前に出ることのない僕にとって良い経験になったと思います。

3組: K. S.

僕が独断と偏見で課題本に選んでしまった「車輪の下」は、ヘルマン・ヘッセという文豪が書いたもので一般的には有名ですが、内容がやや難しく、クラスで読破していたのは、5、



6人で、最初の方は読んだが意味がわからなかったので読むのをやめたというひとが半分弱と、非常に多かったです。(本に触れてもいないという人も5、6人)

それで、「選んでしまった」と表現したわけですが、そのような状況で何よりも困ったのが話し合いのテーマの決定でした。クラスの半分弱が本をほとんど読んでいなかったため、その人たちも会に参加出来るようなものを探しましたが、なかなか見つからず、挙げ句の果てには「なぜ読書会をするのか」というぶつとんだ境地にたどり着くという始末でした。当然、そんなテーマにするわけにはいかず、考えに考えた結果、全員

が会に参加でき、且つ議論が盛り上がるようなテーマを思いつくことができました。読書会本番では、僕のMC能力のなさから、ややぐだぐだになってしまう場面もありましたが、クラスみんなが暖かい目で見守ってくれたおかげで、無事、読書会を終えることができました。

4組：E. N.

読書会を行うにあたって私が一番重要だと思ったのは「本の選び方」でした。最初は1冊の読み切りの本を選んでいました。でも、自分が「この本を何日までに読んできて下さい」と言われても読もうという気にはなれないだろうと思いました。

クラスの中には部活や勉強が忙しく、読む時間がないという人や、読書が苦手で読みたいくないという人がいるかもしれませんが、そこで私は、短くても内容の充実した本を探そうと思いました。担任の先生とも相談して候補にあがったのが

「白い服の男」(星新一)「蜘蛛の糸」(芥川龍之介)「砂の女」(安部公房)などの本でした。「蜘蛛の糸」はもともとみんなが知っている話なので読みやすいと考えました。私が、推していたのは「白い服の男」でした。この本の著者は星新一という有名な短編SF作家です。彼は、私たちが想像できないような世界観を持ったストーリーを書きます。2度目、3度目も読みたいくなるような魅力的な本です。良質の短編小説なので、本の苦手な人も「読書」を楽しむことができると思います。またクラスの人に意見を聞くと、「白い服の男」に票が集まったので、私も自信を持ってこの作品をみんなに薦めることができました。読書会では様々な意見を聞くことができ、有意義なものとなりました。



「白い服の男」(星新一)「蜘蛛の糸」(芥川龍之介)「砂の女」(安部公房)などの本でした。「蜘蛛の糸」はもともとみんなが知っている話なので読みやすいと考えました。私が、推していたのは「白い服の男」でした。この本の著者は星新一という有名な短編SF作家です。彼は、私たちが想像できないような世界観を持ったストーリーを書きます。2度目、3度目も読みたいくなるような魅力的な本です。良質の短編小説なので、本の苦手な人も「読書」を楽しむことができると思います。またクラスの人に意見を聞くと、「白い服の男」に票が集まったので、私も自信を持ってこの作品をみんなに薦めることができました。読書会では様々な意見を聞くことができ、有意義なものとなりました。

機会があれば「蜘蛛の糸」や「砂の女」も読んでみたいと思います。たまには読書の秋を堪能してみたいかでしょう。

5組：M. Y.

クラスで読書会をするに当たって大切なことは、個々でしっかり本を読みこんでもらうことや、論点を明確にしておくなどの準備をしっかりしておくことだと思いました。そこで、なるべくスムーズに話し合いが進むようにするため、あらかじめ論点を書いたプリントを配布し、各自考えてきてもらい、当日それをもとにグループで意見交換をしてもらいました。

The MANZAI という本は登場人物がたくさんでくるので、もしも自分がある場面での〇〇(登場人物)だったら?と、いった、登場人物の視点になって考えてもらいました。全体を通して考え方に共通点はあるように思いましたが、結論が微妙に違ったりしていたのでおもしろかったです。

普段本を読んで、友達と話し合ったり、深く考えて結論づけたりする機会はあまりないように思えます。だから、考え方の視野を広げるいい機会だったと思います。私自身もクラス読書会は初めてだったので、楽しい雰囲気のできるかなどの不安がありましたが、しみりせずじでできたのでよかったです。反省もありますが、いい読書会だったと思います。



International Day

~Te quiero Japón~

A班 K. S.

「テ・キエロ・ハボン」これはスペイン語で「私は日本が好きです。」を意味する。パラグアイを選んだ私がスペイン語を紹介するのは変な話だ。

だが実際にパラグアイでは元々の母国語のグアラニー語とスペイン語を公用語としている。つまりスペインの植民地支配を受けていたわけである。国旗のデザインも表ではパラグアイを裏ではスペインを表している。

しかしパラグアイの伝統は今でも受け継がれている。見せてもらった伝統工芸の中にニャンドゥティというものがあった。全てが手作業で色とりどりの美しい糸を用いて作られるそうだ。銀細工のネックレスも細かく作られていて、とても美しかった。植民地支配を受けながらも、文化を守り続け、受け継いできたことを私は素晴らしいと思う。

このことはパラグアイだけに限らない。伝統文化を残していこうとするのは、世界共通だ。日本人が日本を誇りに思っているように、パラグアイ人も自国を誇りに思っている。このインターナショナルデイは私にそのようなことを教えてくれた。

もちろん私も「テ・キエロ・ハボン」だ。でも将来は外国の視点から日本を見てみたいと思った。そうすれば今以上にもっと日本を好きになるかもしれない。

「貴重な1年間」

B班 M. N.

「兵役は義務であるべきか、自由にすべきか…」さあ、あなたは思うだろう。私はこのテーマが日本語でも十分難しいと感じたが、これをグループごとに英語で意見をまとめディスカッションするというのだからとても困った。しかしグループで話し合うために与えられた時間は20分。黙っては何も進まない。とりえず皆、思ったことを単語だけが発言した。それを2年生の人たちが一生懸命文章に作りかえてくれた。

そしてあっという間に20分は過ぎてしまった。各グループの発表で、兵役は義務であるべきか、自由にすべきかというテーマにおいて6班中4班が「義務であるべき」という意見だった。すると講師のDさんは兵役が義務である台湾についてこんなことをおっしゃった。「兵役の間の1年はすごく辛い。日本のきみたちは自由ですごく恵まれていると思うよ。」と。Dさんによると兵役の生活が始まるとまず頭を坊主にされ、家族と連絡もできなくなるのだという。入隊して3日目、1分間電話をする権利が与えられると家族に電話をしてすごく泣いたのだそうだ。それに加えて毎日の厳しい訓練と規律。これを聞いて確かに自分たちは恵まれていると思った。彼らより人生の中で1年自由な時間が多いのだから。その1年を自分は何をして過ごそうか。好きなことを頑張ったり、夢を叶えようと必死になったり。自分にプラスになるようなことをしたい。そんなことを考えさせられた1日であった。

英語を国際社会にいきる日本

C班 M. U.

今回のインターナショナルデイで香港からは、日本に来て四年目というC・Hさんが来てくれました。初めはC・Hさんの英語が聞き取れるか心配でもありました。しかし、C・Hさんは僕たちにとっても優しく接してくれて、日本語もとっても得意で、実は日本人じゃないかと思うほどでした。今回のインターナショナルデイではそんなC・Hさんとのふれあいや、クイズを交えて、香港について様々な興味深いことを教えてもらったのでいい経験になりました。チャンさんと弦楽部によるバイオリン演奏ももちろん記憶に残るものとなりました。

さて、誰もが知っての通り、今日わが国日本は尖閣問題など、中国を始めとする諸外国との様々な問題を抱えています。このような問題はなかなか解決が難しく、僕たちが社会を担う時になっても、なお課題として残っていることでしょう。

だからこそ、今のうちから今回のような国際交流を大切に、諸外国の文化やその国の背景を共有することはこのような国際問題を解決することにも繋がるのではないのでしょうか。

1.2 oder 3

D班 R. Y.

D班ではドイツの文化について教えていただきました。メインのドイツに関する3択クイズでは、ドイツの特産品であるパン、ソーセージ、お酒等のことや、学校教育の特徴などにまつわる問題が出されました。ドイツではお酒の種類によっては16歳から飲むことが許されていたり、クリスマスは家族で過ごし新年は友達と集まるなど、日本とは違った文化が多く見受けられ、みんな驚いていました。

講師のLさんは英語・日本語どちらもお上手で、僕達が英語の説明を聞き取れず困っていると要所を日本語で言ってくださったので分かりやすかったです。しかしあまり積極的に質問ができなかったのも、まだまだ英語が身に付いていないことを痛感しました。

外国について現地の方から学ぶことは兵庫高校といえどもそう多くないので、貴重な経験になりました。また機会があったら他の国についても学びたいと思います。

学ぶことの大切さ

E班 R. S.

今回様々な外国の人々と関わるインターナショナルデイという貴重な一日を過ごした。

その外国の文化のことについて聞いたり体験する事ができたことなどとても充実した時間を過ごせたと思う。またそれと同時に英語を学ぶことの重要性についても考えさせられた。

英語が出来るようになると多くの外国の人々とコミュニケーションを取ることが出来るようになる。外国の人々と会話が出来るようになるとその国の生活様式や文化の違いについても知ることができ、今まで自分がある物事について抱いていた考え方も別の見方が出来るようになる。その結果常に新しい発見ができてとても満足のする毎日を送ることが出来るのではないかと思った。

この事から英語を学ぶということは世界の人々と繋がるための扉を開く鍵のようなものだと分かった。それを実現するためには日々の学校の授業など身近なところから英語と真剣に向き合う必要があると思った。

インターナショナルデイ

F班 S. H.

インターナショナルデイを受けて思ったことは、まだまだ英語が聞き取れないと思いました。ALTの方々がおっしゃっても、まったく聞き取れず、雰囲気だけで理解していたので、とてももどかしい思いをしました。

班ごとにわかれた活動では、ゲーリックフットボールをしました。ゲーリックフットボールは、アイルランドで有名なスポーツで、ラグビーとサッカー、バスケを混ぜたようなスポーツです。ボールをドリブルしたり、リフティングしたりと難しいスポーツでしたが、コツをつかむと、様々な攻撃方法があったので、頭を使うスポーツでした。N先生がすばやい動きをしていたので、かっこよかったです。

今回の経験を通して思ったことは、他の国では、どのようなスポーツがあるのだらうと思いました。また機会があれば、世界各国のスポーツを体験してみたいです。

僕は英語が苦手で、あまり出来ませんが、これから英語を勉強し、いつか留学してみたいです。

ミャンマーってすごい

G班 R. M.

初めてのインターナショナルデイで私はミャンマーからいらっしやったTさんのグループに参加しました。

Tさんは、私と年があまり変わらないのに、日本に来て、自分の国と違う国の言葉話して、初対面の人たちの前で自分の国について紹介している姿を見て、とても尊敬しました。

ミャンマーは、日本と広さはあまり変わらないのに、たくさん民族がいるそうです。民族によって話す言葉や服装も違うと知って驚きました。なかには、服を着ない民族がいたり、ミニスカートををはいていると白い目で見られる時代があったというのもしりました。仏教が盛んであることは聞いたことがあったけれど、全て本物の金で創られている大仏、パゴダや寺院、神様の力によって起こった様々な不思議な出来事は初めて聞くようなことばかりで、興味をひかれました。

最後に日本代表の衣装としてロリータが紹介されているのに驚きました。Kさんらしいなと思いました。また、ミャンマーの民族衣装は華やかで日本の伝統的な衣装とは違っ

た良さがありました。

今までミャンマーにつ



いて何も知りませんでしたが、今回いろいろな話を聞いて、ミャンマーに行ってみたくくなりました。

英語に悪戦苦闘…(；´Д`)

H班 K. N.

希望通りにいかなかった時に悲しいので他のグループを避け、あっさりと聴衆希望のイタリア・キリバスへ(笑)幕を開けたインターナショナルデイ、そこは異次元の世界でした。

第一印象は

What does it mean ?

最初から英語につまづきました…。そしてパニック状態。分からへん、分からへんを連発し、友達に何を言っているのかを聞く始末。何とかスライドを見ながら知っている単語を拾い上げ、頭の中で無理矢理繋げて解釈しました。私の家の近所には外国人の方が結構住んでいて、帰り道の途中で会ったりすると一緒に帰ったりする時があるので「聞き取れるはず」と安易な考えをしていた自分がバカでした…(笑)改めて自分の英語力の無さを痛感しました。プレゼンをしてくれた人を見ていると、とても楽しそうに喋って下さっていたので分からない自分がとても歯痒かったです。この日を通して「英語がもっと上手になりたい!」という気持ちが強くなりました。けれどそれは私にとって大きな壁です。というのは私の英語力のなさは異常なのです。英語のテストは平均を余裕で下回り、リスニングをすれば0点を連発…(焦)グローバル化が進むこの時代。これからの日本には英語は必須なのでそこそこ危機感を持って英語を頑張っていきたいです! 笑

これからの行事予定

- | | |
|----------|----------------|
| 2月23日(土) | 土曜教室 |
| 27日(水) | 式場設営+大掃除 |
| 28日(木) | 卒業式 |
| 3月1日(金) | 学年末考査(～7(木)まで) |
| 7日(木) | 通学路清掃 |
| 8日(金) | 学年集会 |
| 11日(月) | 球技大会 |
| 12日(火) | 教科書販売 |
| 13日(水) | 入試準備 |
| 14日(木) | 複数志願入試 |
| 15日(金) | 登校禁止 |
| 18日(月) | カルタ大会(再) |
| 19日(火) | 保健講演会 |
| 20日(水) | 春分の日 |
| 21日(木) | 合格発表(10時) |
| 22日(金) | 終業式・大掃除 |

編集後記

2学期末から卒業した64回生が大学出願のための〈調査書〉を受け取りに来ています。それぞれの目標に向けて懸命に努力し、受験勉強を続けた顔つきには“たくましさ”を感じました。早くよい知らせが届くのを待っています。

原稿送付メールアドレスは、以下のとおりです。

E-mail: hyogob7@gmail.com